

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表

「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
1	メール	現状で、削減には反対。議員は市民の意見を反映・代弁すべき、少数意見を大事にするためある程度の人数は必要。	28万は少ない。一家を養えない。他の職業を持っている方もいるが、その収入を前提にするのはよくない。議員活動に専念して家計が成り立つ額、少なくとも30万円台は必要。
2	メール	活動しない議員は問題外。現状人数で市民の課題に対応するため不足なのか？現議員の意見を取りまとめて再度市民にはかるべき。定数増となると活動しない議員が増えると危惧。私の相談している議員はフットワークが軽く、勉強している方で大変と感じている。	落選すれば無職となるため将来へのリスクが大きい。議員を目指すことをためらう仕事だと思う。その中でよい人材を確保するため、ある程度の報酬は必要。今後人口減から税収減が予想され、他市との比較よりは税収の中で妥当な報酬と定数を検討する必要がある。議員自らが検討するのは、当事者のため甘くなる、第三者委員会で検討することが妥当。
	メール	他三市が22人であればそれで良い。但し地域代表の陳情なら行政区長と重複するものでいい。市民のいろんな層の代表としてなら意味がある。例えば子育てママ・パパ、20代・30代青年男女、40代・50代・60代男女、身体障害者男女、精神障害者男女、北杜市地元民男女、市外移住者男女、サラリーマン男女、公務員男女、学校の先生男女、専業主婦主夫、年金生活男女、うつ病患者男女、農業者男女、警察官男女、消防士男女、予備役自衛官男女、芸術家男女、隠居者男女、書道家男女、タレント男女、引きこもり青年男女、引きこもり中年男女、引きこもり老人男女、国家公務員の父兄男女、県庁職員の父兄男女、北杜市職員の父兄男女、労働組合員男女、各政党男女、イラストレーター男女、発達障害者男女、アスペルガー男女などなど。仕事してる人もなりやすいよう土日に議会を開催してほしい。土日の地域行事を廃止して、市民の無償行事の廃止、地域行事を開催する場合は時給850円×拘束時間を行政区から支払うことを義務化、市民の無償労働を廃止させる。利害相反のため行政区長との兼務やめる。当選した場合は区長や会社役員はやめる。幅広くするため供託金は下げる。地域代表ではないため口利き禁止、あった場合は市から報告させる。透明化必要。行政区からの陳情は市の優先順位を決め口利きでの変更は禁止。地域行事への出席は市が主催するものだけで、消防や運動会や祭りの参加は事前選挙活動とみなし禁止して議員の負担を減らす。市も議員も市民のための公僕であるが一部のクレーマーのためにあるのではない、あくまで市民へは公平に接する。	他市と比較しない。時給850円×8時間×150日(議会開催日数)=8万/月=102万円(議会開催日や市役所での打合せや式典に参加した日)北杜市の時給を1,000円の場合は120万円(10万/月)あくまで地域の最低賃金をベースに算出。個人事業主と同様に賞与なし。70歳以上で年金がある場合はその分減額する(実質的に70歳定年) 政務活動費は5万、行政の邪魔をさせず市内だけの活動なら十分。視察は事前に議会承認させ報告も議会にさせ、無駄な視察は減らす。秘書1名の雇用費5万。報酬月額給与8万+政務活動費5万(領収書必要)+秘書雇用費5万=28万。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表

「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
3	FAX	民主主義を考えると、一定の年齢に達した市民全員が話し合っ て決める直接民主主義が一番と思うが現実的でない。市民の多様な意見を反映する議会にするには、人口に応じた議員数で市民の声を議会を通し、市政に反映することが重要。従前にあった人口に応じた法定数26人がよい。	第一に市民の暮らしを支える市民所得とのバランスを考える必要がある。北杜市民の平均所得と比較して検討すべき。市民の給料・農業・年金所得と比較して、現行の28万円は決して少なくない。年4回の定例会と臨時会、常任委員会などの調査研究や研修活動全部を合わせても、年間活動日数・時間は、労働者の年間労働日数・時間と比較して非常に少ない。時間当たりの活動時間・労働単価は大変高いと思う。現行の28万円がよい。定数を増やした分は、政務調査費を削減または廃止して報酬の充当に一部を活用と考える。
4	メール	削減に反対。人口は甲斐市や南アルプス市より少ないが面積は 広大で、扱う問題も数多く、本来であれば増やすことも考慮すべきだが、広範囲な市民の理解を得るのも大変なため現状維持がよい。	甲斐市、南アルプス市と同様に月35万円まで引き上げるべき。現状が山梨県内で最も低い報酬で、若い議員が議員を続けられない額と思う。家族を養いながら議員活動をするためには、最低でも月35万円は必要。
5	メール	住民の意思を行政に反映させる役割を負っているが、その点でどのような問題が生じているか、その解決のための議論がないと定数や報酬の問題を検討することは意味がない。各地域の人口・特性等に応じた議員の適正な数の検討が必要。山梨県の他の自治体と単純に比較することは、地域の広さ、産業の分布、人口の構成など地域の特性を考慮することのないもので、参考とすることに意味がない。まずは議会の考え方を示すべき。	
6	メール	35万×17人＝595万。(28万×22人＝616万)年齢も30代・40代・50代・60代以上と年齢の幅があるといい。地域は広いが、それぞれの地域からそれぞれの年齢の議員がいると幅広い情報が入手できる。若い人たちの参加がとても大切で、新しい発想が生まれてくると思う。年代ごとに獲得票の多い順に当選を決めると幅広い年齢層の議員を選べる。成り手のいない今の議会選挙では新しい方法を考えることが必要。働いている人たちのために、夜議会を行うのがいい。夜だと傍聴もでき市民も参加しやすい。	35万くらいにして、人数を減らすのもいいのでは

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表

「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18～12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
7	手紙	各地域2～3名程度、全体で22～23名は妥当だと思う。	あまりにも低すぎ。近隣の市町と比較しても低すぎ。北杜市の進路を決める重要な市議会議員が自信と責任と自覚をもって活躍してもらうためには、年間600万円は必要ではないか。政策審議のプロとして働いてもらうためには、他の予算を調整しても予算確保すべき。
8	メール	山梨県だけではなく全国と比較しても多いと感じる。単に人口当たりの人数の比較も然りながら、実際にどのような活動をされてきたか5年間見てきたが、人数の割には活動実態が見えないのが実感。多くの議員は、選挙前だけ目立つ活動をしているように見えた。議員定数16名を提案する。	議員報酬が非常に低いため、純粋な政治家として専従することが不可能なことがある。従って多くの議員に見られるようにそれまでの職業を退職された第二の人生として歩まれている方や、自営業の方が占めることになっている。専従ではないため片手間に年4回の議会をこなすだけの方も見受けられる。議員報酬月額40万円・政務活動費月額2万5千円を提案する。定数削減と報酬増加だけで議員の質向上するとは思えない、市民の目に常にさらされていることで、緊張感を持った議員活動を行うことを期待する。その結果、4年間の実績を正しく評価できると考える。
9	メール	パブリックコメント実施の掲載に違和感を感じる。議会におけるパブリックコメントのあり方が決められていないからである。議会として住民からパブリックコメントを求めるのであれば、案の公開、意見公募の手続き、意見の公表や意見の案への反映の仕方などを定めてから実施すべき。地方議員のなり手不足が問題視され、議員報酬だけでは生活できないなどの指摘があるのは承知しているが、そのような問題が深刻になっていることを住民に知らせず、現在の議員定数・報酬がどのような根拠で決められたのかを明らかにせず、また、寄せられた意見をどう扱うかも不明のままである。このような状況を、妥当性を判断する材料がほとんどなく具体的な意見は出せない。議員報酬は住民要求の把握や審議に反映させる仕組みに即して考え、活動を支障なく保障する視点から考える必要がある。報酬を上げたいから定数を減らす、他市と比べるなどはふさわしくない。議会基本条例の制定を急ぎ、それに基づき定数や報酬の案を住民に問うべき。議会・議員の果たすべき役割を明確にした上で論議をしてもらいたい。	
10	メール	パブリックコメントに至った経緯には大賛成である。総人口当たりの市議1名の数は、韮崎の1848人を除けば、甲府5876人、甲斐3436人、南アルプス3257人であり、北杜市は2132人である。人口構成にもよるが、全人口から見て他市に近い数字とするならば3300人とし議員数は14～15人へ削減すべき。現在会派が6～7に分かれており市政を混乱させる要因であり、会派ないし派閥の形成は最小にすべきであり、この認識が市議には不可欠。市議の削減も重要であるが、一方では市職員の削減と効率化が不可欠であることを市当局や市議は認識すべき。総職員数は506人、人口46912人、人口比率1%強。職員の比率がこれほど多い市町村は少ない。職員の削減に関してのパブリックコメントを実施してもらいたい。正職員に加え臨時職員も採用している、そこまで業務量が多いとは想定しにくい。産業構造の見直しとそれぞれの活性化策こそ、市議や市職員に課せられた重い課題である。	緊迫する財政の中であっても、少なくとも市議としてある程度の生活ができる給与を支給し、新たな市政を推進すべき。定数削減分だけ増額して月40万～50万程度にすれば、新たな志をもつ市議が誕生するかもしれない。議会や委員会等の開催数からみて、通常の企業勤務での時間制限に比して自由な時間を保持できるので、他の活動も可能である。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表

「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
11	メール	市が市民に何をしてくれるのではなく、市民が市のために何をできるのか問える。市民の権利、義務の再考の下で、議員が市民の顔色を見、市民が議員に群がるのは止めよう。(議員特権廃止) 本来票にもお金にもならない事をするのが議員、よって、議員定数は半分に	定数同様、報酬も半分にと。もともと議員報酬の他にも先生方には色々な名目での収入が多く、それもなくせればと思う。
12	手紙	パブコメは一般的にも、これまでの北杜市の様々なパブコメに関してもまず意見を求める側の原案があり、それに対して意見を募るの常ですし、ごく当たり前の方法。ところが今回は原案ではなく、ただ2点に関する意見募集となっている。住民の意見を尊重することにはならず、市議会の意図がどこにあるか疑う。地方自治体の議員の任務は住民の生活を擁護し、その権利を最大限保障するための仕事と同時に国の一方的な施策の中で住民に不利益なものに対しては住民の立場で対応することと言える。自治体の執行機関のチェック、監視と議会独自の施策・立案、条例化なども主な仕事である。北杜市の基本問題(人口減・高齢化、福祉のあり方、働く場などの課題)に関し、住民と市議会・議員との意見交流の場がほとんどない。市議会に対する請願の件では、何回も議長(議会)に要望や意見を出し、参考人として請願者の意見を直接聞くよう訴えたが前進がなく、回答すらない。議会への要望を直接聞く機会がない、女性議会・青年議会・学生議会また職能別の議会などは、議会として機能するための補助的なもの考える。選挙の時だけでなく、地域ごとの懇談会や地域委員との懇談も必要。居住地域だけでなく、旧町村単位で、議員全員が参加すべき。地域単位での住民要求を聞き、市政を考える懇談会の開催。全員協議会の市民の傍聴を認めることが改善点。市議会が民主的議論の場になるため市民が市議会の委員会などで発言する機会を設けることが第一と思う。主人公は市民であるため市民の意見を議会として直接議場の場で聞くべき。CATVの放映など前進面は評価する。住民との距離を短縮するには議会で何が話し合われているかを知らせること。議会だよりは報告としてのもので市民は議会を遠いものと感じる。市の課題に対して政策立案の内容や会派の提案が行なわれ、市民に明らかにされるべき。議員定数の削減は必要ない、削減に反対。削減は住民との距離を大きくするだけ、市議会・議員に望むことを考えること。報酬28万円は決して低いとはいえない、県内他の報酬から見れば低い、北杜市民の平均所得は月26万円ほど。報酬の引き上げがあれば、市民から更に遠い存在になる。定数及び報酬問題は市議会のあり方、議員の任務と深く関わった問題であるため、そこを見失うことのないよう期待する。	
13	メール	奇妙なパブリックコメント募集と感じる。何に対してコメントするのかわからない。議会で議論して理由を示して、こう変えたいがそれに対してどう思うかとコメントを求めるのが筋。今回示されたデータは、合併前後での比較と県内4つの市との比較のみでありあまり意味がない。そもそも議員の役割は何か、住民の要望を聞き、実態を調べ、場合によっては行政の担当部署に繋げたり、住民に代わって(住民を代表して)議会で取り上げて政策に反映させたり、議会として条例を作ったりすることではないか。北杜市が広大であることから、現在の22人の定数が多いとは言えない。住民としては議員の仕事をかちんとしてほしいです、それが果たせる報酬を支払うべき。額については一律である必要があるか。議員としての仕事に対する報酬と考えれば一律だが、一方議員の生活保障と考えれば、すでに年金が出ている方や子育てが終わって教育費がかからない方と教育費がかかる年代の方に差があってもよい。基本の額を決め、プラス扶養費、住宅手当などの規定を定め、若い世代の生活ができるよう改善できないかと思う。議員定数と報酬についての議論を透明化、見える化して多くの住民が納得できるよう議論を進めていただくようお願いする。	
14	FAX	経費削減などを理由に身を切る改革を主張する人たちがいますが、身を切ることで切られるのは、議員の身ではなく北杜市民の多様な民意ではないでしょうか。民主主義の基本はいかに民意を反映した議会にするかにある。8町村が合併した広大な面積をもつ北杜市ではなおのことと思う。したがって、議員定数は現行の22人から増やすことはあっても、減らすことは大反対である。	今の北杜市の報酬28万ではあまりにも安すぎる。子育て中の人も市議として生活できる、市民のために誇りを持って尽くすことのできる報酬に改定してほしいと考える。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表

「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
15	手紙	<p>昨今、定数削減とか身を切る改革が声高に叫ばれているが、北杜市の場合他市と比較しても格段に市域が広く、各地域の要望・意見を市政に活かすためには、現在の議員定数は維持しなければならない。パブコメの範囲外ではあるが、議会の近代化という意味で、定数の中に一定数の女性枠を設定するか、全員協議会を傍聴可能にするなど、より活性化され開かれた議会にする方策も検討していただきたい。</p>	<p>県内の他市との比較でも明らかなように、現在の議員報酬では低すぎると思う。全国の市の平均額が42万ということを考えれば、せめて県内近隣市と同等額への引き上げが求められる。また、議員活動の活発化という意味でも、政務活動費も合わせて引き上げが必要ではないか。現状の政務活動費では活動のための交通費に消えてしまい、十分な調査・研究などおぼつかない金額ではないか。</p>
16	メール	<p>市議会・市議会議員の役目は多様な市民の声を吸い上げ集約して市政に反映させることにある。そうした役目を果たすために選ばれた議員一人一人ができるだけ広くきめ細やかに多様な市民の声を聞くことと思う。東京都に匹敵すると言われる広い市内の隅々の様子を見て課題や問題点を掴み市政に反映させる議員活動が求められる。多様な市民の要求、声を吸い上げるにはやはりある程度の議員数は必要だと思う。(北杜市5万人弱の市民を議員数で割った議員一人あたりの数は、合併前の町議会では町議一人あたり400人だが、現在の22人の議会では市議一人あたり2,000人以上と大幅に増えている。いかに合併前が決め細やかに、また、濃く住民の声が反映され得る状況下にあったのかと改めて思う。)新しく市になってからも定数を減らしている。さらに減らす必要はない。他の市に比べて北杜市が広いということ、人口密度が小さいという点も議員活動の大変さの観点から考慮する必要があると思う。</p>	<p>地方の過疎化が進み議員のなり手がなく議会が成り立たないというような地方もあると聞く。しかし、北杜市では移住者も多く、若い人も農業に従事するなど頑張っている。そういう中北杜市を良くしたいと積極的に議員に立候補する人も現れている。市の発展・活性化に繋がることと思ひ、頼もしく感じ期待する。そうした若者や家庭を持った人でも安心して議員活動に専念できるようにすることも大切、きちんと生活ができ家族を養っていける給料を保証してあげることは最低必要だと思う。その点、他市に比べ北杜市は低すぎると思う。議員がしっかりと住民の代表として仕事を誠実にやってくれば、決して身を削れというような声は起きないと思う。</p>